

グループディスカッション



<討議テーマ>

A:若い世代を海外旅行に取り込む為に何ができるか？

B:インバウンド需要を旅行会社の利益に結び付ける為には？

C:AI (DX) を駆使して、いかに生産性向上に繋げられるか？

会員同士の自由闊達な意見交換を重視するトラベル懇話会は、今年も10月例会でグループディスカッションを実施しました。例会では過去にも討論会、小グループ討論会などを開催してきましたが、現在の形式でのグループディスカッションは4回目となりました。例会出席の60名全員が参加した今回のディスカッションも活発な意見交換の場となりました。



思いを素直にぶつけ合う場として設定

グループディスカッションに際して百木田康二会長が毎回強調するのが、日頃から会員が抱えている思いや考えを仲間に伝え意見交換する重要性で、トラベル懇話会の





大切な活動のひとつであること。懇話会の今期事業計画でも、例会における「会員の発言機会を増やしていく」ことは事業計画として明記されている。ディスカッション前の挨拶で百木田会長は改めて「何かを結論付けなくて結構です。皆さんが思うことを素直にぶつけていただきたい」と呼びかけました。

より具体的なテーマを3つ用意

今回のテーマ設定についてセミナー委員の高橋誠一理事は、昨年11月例会のグループディスカッションでの討論テーマ（「旅行産業の魅力向上に向けた経営課題」「旅行産業の魅力向上に向けた海外旅行のあり方」

「旅行産業の魅力向上に向けた国内旅行・インバウンドのあり方」）をふまえ、「課題をよりクローズアップして具体的に課題認識や対応策を語り合っていただけるように討論テーマを設定した」と説明しました。

討論ルールは3つ。「参加者の1回の発言時間は2分以内。全員が3回以上は発言するイメージで」「特定の発言者が長時間話し続けたり多数回発言することは避ける」「自由な意見交換により『こんな意見があるのか』という発見や気づきを重視し、無理に結論をまとめない」の3点を、ディスカッション時間（55分間）を有効に生かすために確認しました。

討論で浮かび上がる

各テーマの課題と可能性

8 テーブルの分かれて行われたディスカッションを終え、その内容を各テーブルから発表。55分間の討論を2分間に圧縮するという難題にも各発表者が巧みに対応し、テーマのポイントを紹介しつつディスカッションの様子を再現。成果を参加者全員で共有しました。

4つのテーブルで討論したテーマ A「若い世代を海外旅行に取り込む為に何ができるか？」については、複数のテーブルで「推し活」をキーワードの一つに挙げるアイデアが挙げられ、教育旅行に対する国や自治体の支援に期待する意見も報告されました。

テーマ B「インバウンド需要を旅行会社の利益に結び付ける為には？」は2テーブルが討論。OTAがインバウンド需要の取り込みで先行する中でも、広域DMOによる成功事例や旅行会社によるテーマ深掘り型

商品の健闘など参考事例があることが紹介されました。

テーマC「AI (DX) を駆使して、いかに生産性向上に繋げられるか？」も2テーブルが討論。積み上げてきた専門性の高い知見のAIへの流出やセキュリティへの警戒感や、個社対応の限界、業界共通プラットフォームへの必要性も取り上げられました。



<各テーブルの報告者>

左上から順に、久野氏、日根氏、富川氏、嶋田氏、飯森氏、砂田氏、七條氏、佐々木氏

<百木田会長挨拶>

グループディスカッションはトラベル懇話会の目玉の一つの活動です。何か結論付けるのではなくて結構です。皆さんが思うところを素直にぶつけてください。



余談になりますが、来年入社予定の内定学生たちと話をしましたが、私たちが思い描いている若者たちの海外旅行への意識が少し違うのではないかと感じました。彼らがすべて海外旅行に関心がないのではなく、海外旅行への思いが2極化しているように感じました。海外旅行をする人は卒業旅行の前にも相当な回数を海外に出掛けています。反対に行かない人はまったく関心がなく海外旅行には行きません。

統計上は29歳以下の女性が一番海外旅行に出掛けていて、次は29歳以下の男性です。総数として見ると少ないのですが、海外旅行に関心がある若者は行っているわけで、行く人と行かない人の差が激しく大きいことが分かります。若者は海外旅行に行かないという前提に立ってしまうと違うように思います。限られた時間ですけど今日の皆さんの討論に期待しています。

